

# News Letter

世界に賛美と福音を

工藤篤子ワーシップ・ミニストリーズ

<http://akworship.com/>

Vol.60

WINTER  
2016



AKWM

(旧、工藤篤子音楽ミニストリーズ)

## 私の賛美の原点

工藤篤子ワーシップ・ミニストリーズ 代表

工藤 篤子

幸いなことよ。そのそむきを赦され、罪をおおわれた人は。  
幸いなことよ。主が、咎をお認めにならない人、  
その霊に欺きのない人は。 (詩篇32篇1-2節)



昨年11月、大阪にて第二回目の賛美セミナーを開催しました。2013年の第一回目のセミナーでは、詩篇51篇から「罪赦された者の賛美」を学びました。今回は詩篇32篇から、同じく悔い改めと罪赦された者の賛美を学びました。賛美とは、罪赦された者たちが、罪を赦してくださる神にささげるものだからです。

詩篇32篇は、「幸いなことよ。そのそむきを赦され、罪をおおわれた人は。」という、罪赦された者への祝福から始まっています。「幸いなことよ」は、ヘブライ語では「アシュレイ」です。神からの祝福を意味しますが、「祝福」(ヘブライ語:バラフ)という言葉の持つ意味とは別の広さをもった言葉であると思います。それは、何物にも代えがたい「至幸」と呼べる深い喜びであり、また、神との正しい関係から与えられる真実の「幸い」なのだと思います。

詩篇32篇1-2節には、三つ罪が書かれています。「そむきの罪」(⊙ペシャ)とは、神の御心に反していることを知りつつ犯す罪。「罪」(⊙ハーター、ハッタート)とは、人間的な弱さや無知のゆえに犯した罪。「咎」(⊙アウォン)は、神から離れた人の思い、ことば、行為のゆがみ、ひずみ、曲がっていることです。

この詩篇の作者であるダビデは、しばらく自分の罪を告白せずにはいました。そのため、神の御手が昼も夜も彼の上に重くのしかかり、彼の骨髄は夏のひでりのように乾ききってしまいました。ついに、彼は自分の罪を神に知らせ、咎を隠さず、そむきの罪を主に告白しました。すると、神は彼の罪のとがめを赦してくださいました。そうやって「正しい者」とされたダビデが、詩篇32篇の最後でこう歌っています。

正しい者たち。主にあって、喜び、楽しめ。  
すべて心の直ぐな人たちよ。喜びの声をあげよ。

(11節)

私自身も、これまでの信仰生活の中で、「そむきの罪」を犯したことがありました。最初は黙っていましたが、次第に心臓がチクチクと針で刺されるように痛くなりました。そして、ついに告白したのです。心が悔恨の思いで一杯になりました。そのような時が何か月も続きました。それは、何か月も赦しを請わなければ赦されなかったからではなく、主が、日々私の心を砕いてくださったからでした。私にとって、必要で実に大切な時だったのです。そのように、毎日主に心砕かれて行く中で、主が心の深みにさまざまなこととお語りになり、また以前は見えなかった思いや小さな罪が示されて、さらに心が砕かれて行きました。そうやって、主が私の霊を新たに造り変えて行ってくださいました。今思い返せば、毎日心が砕かれたあの時ほど「至幸」(アシュレイ)の時はなかったような気がします。そして、ある日、心の奥からふつつつと赦された喜びが湧き上がり、口からは神への感謝と賛美が溢れ出てきたのでした。

この悔い改めこそ、私の賛美の原点です。今はもうあの時のような「そむきの罪」は犯さなくなりましたが、日々、気づかずに犯し続ける「罪」があります。傲慢の罪、自己中心的な罪、人を裁く罪、心配の罪、金銭に目が行く罪、神以外のものに心奪われる罪…。それゆえ、今日も、主に光を当てていただき、示された罪を告白し、洗いきよめられ、私の霊を新たに造り変えていただきたいと願っています。そして、聖霊によって私たちの霊を日々更新してくださる愛と赦しの神に、心から湧き上がる感謝と賛美をささげる者とさせていただきたいと思っています。



の提題を打ち付けたことを機に宗教改革が起こりました。それゆえ、ルターのシンボルは白鳥です。

フスとルターの共通点は、信仰だけでなく、ふたりとも美声の持ち主であったことです。ルターも、フス同様、自ら自国語で賛美歌を作り、教会の賛美を燃え立たせました。その中で最も有名なのが、詩篇46篇から作られた「神はわがやぐら」です。この曲が生まれた背景は定かではありません。しかし、ルターがこの賛美歌を書いたと考えられる、1527-28年頃、ルターは死を覚悟するほどの病と鬱状態に苦しんでいました。その頃、ヴィッテンベルクにペストが襲来し、1527年12月に誕生した長女エリザベスもペストに打たれ、生後8か月で死にました。また、ルターを通してプロテスタントに改宗した牧師たちは、次々に悲惨な死を迎えていました。その時のことを、ルターは、後の著書『われここに立つ』の中で、「私は死と陰府の門にあり、キリストは見失われ、自暴自棄と神への冒瀆にゆすぶられていた」と告白しています。

## 宗教改革時代の賛美 2

マルティン・ルター ～神はわがやぐら～

しかし、憐れみと勝利の神は、生き地獄のような苦しみの中にいたルターに、御手を差し伸ばしてくださいました。彼は、詩篇46篇の「神はわれらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある助け」に、唯一の避け所である神を見いだしたので。ルターは、彼と彼の周りの者たちを激しく滅ぼそうとする敵の前に霊とたましいを奮い立たせ、病床から声を絞り出すように「神はわがやぐら」を歌い、立ちはだかる敵に、万軍の主なるキリストの勝利を宣言したのでした。

死の淵から、死の王である悪魔に宣言されたキリストの勝利の賛美歌「神はわがやぐら」。今年も、この賛美歌をもって主の勝利を高らかに宣言し、永遠の御国をもたらす福音を伝えて行きたいと思っています。

### 神はわがやぐら

暗闇の力が世界のあちこちで猛威を振るう大変な時代になりました。また、敵は、神に忠実に歩もうとする教会さえも倒そうと、隙あらば些細なことで教会と神の子らを混乱させようとしています。このような時だからこそ、敵に対して主の勝利を宣言する大切さを覚え、昨年秋のいくつかのコンサートでは、最初にマルティン・ルターの「神はわがやぐら」を歌いました。主なる神がほめたたえられるコンサートでは、いつも神の臨在を覚え、聖霊が人々の心に語りかけてくださいますが、「神はわがやぐら」を冒頭に歌ったコンサートでは、特に神の力が大きく働かれたことを覚えました。

前号に書かせていただいたチェコの宗教改革者ヤン・フス(1369?-1415)は、宗教会議で異端宣告を受け火刑に処せられるとき、「あなたがたは、このガチョウ(Hus=ガチョウ)を丸焼きにするだろうが、100年後には白鳥となってよみがえるだろう」と言ったという逸話が残されています。そして、彼の殉教の約100年後の1517年、マルティン・ルター(1483-1546)がヴィッテンベルクの城教会に95か条



ドレスデン、聖母教会前のマルティン・ルター像

このニュースレターは、次の方々のご支援をいただいています。

**VIP関西センター  
テナントビル**

地下鉄北浜駅②号出口正面

〒541-0041 大阪市中央区北浜2-3-10  
TEL.06-6232-1185 担当者:梅津

医療法人  
**クリニック石田**

診療科目 / 耳鼻咽喉科

〒558-0055  
大阪市住吉区万代3-12-5  
ハイムスタイン2階

南海高野線、帝塚山駅下車 / 徒歩10分  
阪堺軌道鉄道上町線、帝塚山3丁目下車 / 徒歩5分  
大阪府立急性期医療センター前 / 北に徒歩3分

**TEL.06-6676-1700**  
院長:石田 稔  
http://www.conet.ne.jp/~clinic-ishida/

産科・婦人科・小児科  
医療法人社団グロリア会  
**月寒グロリアクリニック**

院長 平島 功二  
副院長 片桐 博

〒062-0053  
札幌市豊平区月寒東3条16丁目3番8号  
TEL.011-854-4103 FAX.011-854-4127

株式会社  
**富川グロリアホーム**

「終の住みか」を備えるために  
労しています。

〒055-0006  
北海道沙流郡日高町富川南4-2-49  
TEL.01456-3-4000

**ミクニカイ株式会社**  
水とエネルギー

本社 〒532-0033  
大阪市淀川区新高3丁目7番9号  
TEL.(06)6394-0671  
FAX.(06)6394-0710  
E-mail:sakamotot@mikunikikai.com  
URL:http://www.mikunikikai.com

ベルギーに近い、オランダ南部の田舎に休養にきませんか?  
グループでも個人でも、自炊でも食事付きでもOKです。

**CFC**  
Christian Fellowship Center  
**みどりの牧場**  
John & Asako Payton

Wilhelminalaan 25, 5512BJ Vessen, The Netherlands  
Tel. +31(0)497-592090 Fax. +31(0)497-591389  
e-mail: asako@payton.nl asakotwama@gmail.com

**atelier phos**  
DESIGN < WORK

http://atelier-phos.com/

ビデオ撮影・編集・タビング  
ホームページ作成 etc

**株式会社 トライアート**  
代表取締役 背野 康英

〒574-0073  
大阪府大東市緑が丘1-20-1-409  
TEL.072-874-9107  
E-mail:trialart@ab.auone-net.jp



## ルターの生涯

1483年、アイスレーベンの坑夫の息子として生まれたルターは、父親の期待に応じて勉学に励みました。しかし、法律家を目指して大学で学んでいた1505年、学校に向かう草原で激しい雷雨にあいました。その激しさに死さえ予感したルターは、「聖アンナ、助けてください。修道士になりますから」と叫びました。ルターは助かり、その約束を果たすために、父の許可を得ずに聖アウグスティヌス修道会に入りました。

しかし、ルターは、司祭の叙階を受けて後も、いくら禁欲に生き、罪を犯さないように努力しても、神の御前に義(正しい者)であるという確信を得ることができませんでした。そしてある日、ローマ人への手紙1章17節から、人は行いによってではなく、信仰によってのみ義とされるという理解を得たのです。大学で神学の教鞭を取っていたルターの、その後の、聖霊に溢れ、み言葉に燃え立つ講義は、多くの学生たちの心を引きつけました。

義認が信仰によるものであると確信したルターは、免罪符のあり方に抗議した『95か条の提題』を、ヴィッテンベルク教会の扉に打ち付けました。免罪符とは、16世紀、カトリック教会が発行した罪の償いを軽減する証明書で、実際の目的は、ローマのサンピエトロ寺院建設の膨大な資金を集めるためのものでした。ローマ教会に抗議したルターは、1521年のヴォルムス会議で帝国追放と通告されました。しかしルターはザクセン選帝侯フリードリヒ3世のヴァルトブルク城に匿われ、そこで聖書を翻訳しました。その間、ヴィッテンベルクでは、過激派が教会を破壊するなど、大混乱状態に陥っていました。

1522年、見かねたルターは人々の前に姿を現し、説教によって暴力を糾弾しましたが、農民戦争が起こり、その後も激動の時が続きました。宗教改革は、そのような嵐の中を貫く一条の光のように、神の不思議な力によって進められて行ったのです。その器として用いられたルターは、絶えず闇の力の激しい攻撃にさらされ、幾度となく死を覚悟しました。

そのような中でルターを支えたのが、妻カタリーナ・フォン・ボラ(愛称ケーテ)でした。修道女であった彼女は、1523

年、ルターの教えに追従する修道女数名とグリマにあったシトー派女子修道院を馬車の荷台に隠れて脱走。1525年にルターと結婚しました。貴族出のケーテは、実に賢く家庭をおさめ、畑を耕し、薬草やビールまで作り、魚の養殖場を借入し、ルターの説教を聞くために日々何十人と訪れる客や神学生の手話をしました。その妻を、ルターは敬愛を込めて「私の女主人」、「私の骨の骨、私の肉の肉」と呼びました。肉体的、精神的病に悩まされ、激動の道を歩みながらも、ルターが63歳に至るまで主に仕え続けることができたのは、神の守りとケーテの献身的な支えがあったからなのです。

## 我らの神は強固なとりで(神はわがやぐら)

Ein feste Burg ist unser Gott  
Martin Luther, 訳:工藤篤子

1. 我らの神は強固なとりで、  
優れた守り、武器。  
神は我らをすべての苦しみから解放してくださる。  
古き悪しき敵は今必死にあがき、  
その大きな力と策略を用いて攻め上る。  
地上の存在でこれに勝てる者はない。
2. 我らの力は無に等しく、  
すぐに敗北してしまうに違いない。  
しかし、我らに代わって戦う義なる方がいる。  
それは神ご自身が立ててくださった方、  
君はその名を尋ねるのか?  
その御名はイエス・キリスト、  
万軍の主なるお方、  
この神以外に勝てるお方はいない。
3. 悪魔の力は世に満ちて  
我らを飲み込もうとするとも、  
恐れる必要はない。  
勝利は我らのものだから。  
この世の支配者は  
たけり狂って戦いを挑むが、  
彼は私たちに何もできない、  
神のみことばひとつで、彼は打ち倒される。
4. 彼らは神のみことばに従わず、  
あざけるとも、  
神は私たちの味方、  
聖霊と賜物を我らに与えてくださる。  
彼らは地上のいのち、財産、名誉、妻子も奪うがいい、  
しかし、彼らに勝利はないのだ。  
神の国は永遠に我らのものだから。

教会や少人数グループでの  
イスラエルツアーを  
計画しませんか。

ご予算や人数に応じて、ご要望にお応え  
できる聖地旅行を企画、見積もりいた  
します。充実、お手頃価格、手作りの  
ツアーをなさいませんか。  
お気軽にご相談ください。

(株)ホーリーランド  
ツーリストセンター

担当:石田  
TEL:06-6226-1307  
FAX:06-6226-1308  
E-mail:htcjrnm@nifty.com

## 最新アルバム

よき力に守られて  
VON GUTEN MÄCHTEN  
定価2,500円(税込)



賛美セミナー  
DVD 2枚組  
13年11月4日大阪セミナー録音  
定価4,000円(税込)  
賛美セミナー  
CD 4枚組  
13年11月9日東京セミナー録音  
定価4,000円(税込)

賛美セミナー DVD、CDも好評発売中!

## 工藤 篤子 著書&音楽CD 好評発売中

ご注文、お問い合わせはAKWM事務局まで



ほんとうの願い  
定価3,000円(税込)



神だけが  
定価2,500円(税込)



カンシオン  
定価2,500円(税込)



Come To Me  
定価3,000円(税込)



讃美のこころ  
定価1,600円(税込)



たましいの歌  
定価3,000円(税込)



讃美 Adorar  
定価1,500円(税込)



鳥のうた  
定価2,500円(税込)

# Schedule 工藤篤子 2016年スケジュール

2月	
11日(木)~15日(月)	マドリッド
4月~6月	
4月中旬	来日
4月26日(火)~5月4日(水)頃	中国の教会にて賛美奉仕
5月9日(月)~5月16日(月)	台湾コンサートツアー
5月後半	東京 賛美セミナー(仮)
5月下旬 or 6月上旬	帰独
7月~9月	
7月8日(金)	ベルリン日本語集會にてメッセージ奉仕
7月27日(水)~31日(日)	第33回ヨーロッパ・キリスト者の集い (ドイツ、シュヴァルツヴァルト)

9月15日(木)~10月6日(木)	ブラジル・コンサートツアー
10月~11月	
10月7日(金)	来日予定
10月12日(水)頃~17日(月)	岩手県被災地ツアー
10月23日(日)	宝塚栄光教会 チャペルコンサート
10月28日(金)	第15回AKWMチャリティー・コンサート
10月30日(日)	奈良聖公会 コンサート
11月18日(金)~28日(月)	ハワイ・コンサートツアー
12月	
12月5日(月)	ブレイズ・ワークショップ
12月7日(水)	ライトハウス宇部キリスト教会クリスマス・コンサート
12月8日(木)	虹ヶ丘キリスト教会婦人クリスマス
12月18日(日)	舞鶴福音教会 クリスマス・コンサート

## 14th AKWM CHARITY CONCERT

## 第14回チャリティー・コンサート報告 ネパール大震災支援

昨年10月29日、第14回AKWMチャリティー・コンサートが行われました。2015年4月25日にマグニチュード7.8の大地震に見舞われたネパールの、なかなか支援が届かない山岳地域の人々への支援を目的として開催されたこのコンサートには、142名の方がお越しくださいました。コンサートの中で、被災地の現状について写真やデータに基づく報告も行われ、ネパールへの祈りを増し加える時となりました。このコンサートの収益金20万円を、長年ネパールで忠実に主に仕えて来られた宣教団体を通して、復興のためにおさげすることができました。復興の努力が続くネパールのために、どうぞ引き続きお祈りください。また主は、工藤篤子姉と野田常喜兄の賛美を通してご自身を現してください、賛美の中に住まれる主の臨在にあふれるコンサートとなりました。多くの方が励ましを受け、福音を聞かれたことも、感謝とともにご報告させていただきます。皆様のお祈りとご支援に心からお礼を申し上げます。(AKWMスタッフ 記)



### Echo

エコー

■途中の証し、特にボンヘッファーの映像を交えた証しと選曲、すばらしかった。／素晴らしい伝道集会、一人で来たのがもったいなかった。／パワーポイントの映像が美しくまた歌詞も丁寧に打ち込んであり、コンサートにふさわしく完成度が高いと思った。／神の選ばれた民イスラエルを愛されるキリスト(工藤姉)の素晴らしさに感動した。／工藤さんのメッセージがとても心に響いた。／説明はもう少し短い方が宜しいと思った。／聖霊の力に祝された賛美コンサートだった。(10月29日チャリティーコンサート)

■第一に美しいソプラノに感動、聖書の内容に基づく歌にも感動した。／聖書の内容と歌に感動した。ボンヘッファーは特に。／神様が生きておられると初めて耳にした。仏壇の中にいると思っていた。／宗教の色が濃かったのでよく理解できないこともあったが、訴えることは、やはり胸を打つものがあった。(岩手県被災地、ノンクリスチャン複数)

■工藤さんの賛美と証しで、やはりこの神様だけ信じていくと決心した方がおられました。賛美で鳥肌が立ったと言われる方が、キリスト、ノンクリスチャンを問わず多かったです。本当にあたたかく、豊かな臨在のある集会でした。(クリスマスコンサート実行委員の方より)

■賛美の基本は神への悔い改め、砕かれた心。心からの感謝と賛美をささげるために、今まで聞いたことのない、貴重な学びをさせていただいた。／歌詞の深みや意味の重要性をもう一度よく吟味するように示された。今後の賛美奉仕につなげていきたい。(賛美セミナー参加者)

■「声は出すという意識を棄てること。声は神様から戴くものであること。声は水と同じようにいつも回転しながら流れるもの、常に動いているものであること。お腹を支えに内からことばを語れるように。響きに語りたい思いを乗せること。主に捧げるものだから。霊の導きのなかで捧げられるように。」賛美するための特別なレッスン、どう感謝していいかわからないくらいです。ありがとうございました！(賛美レッスン受講者)



工藤篤子ワークショップ・ミニストリーズ 事務局  
Atsuko Kudo Worship Ministries

AKWMの伝道活動は、皆様のお祈りと献金と奉仕によって成り立っています。ご支援くださる皆様をこの活動の一員と考えています。この活動がますます主に用いられ、宣教が進みますように、どうぞ一員としてご参加、ご支援ください。

〒541-0041 大阪市中央区北浜2丁目3番10号  
VIP関西センター5F  
TEL.06-6226-1334 FAX.06-6226-1336

口座が新しくなりました

郵便振替口座 00930-1-165955 「工藤篤子ワークショップ・ミニストリーズ」  
銀行振込口座 三菱東京UFJ銀行 瓦町支店 (店番003)  
普通預金 0133752 「工藤篤子ワークショップ・ミニストリーズ」

\*三菱東京UFJ銀行にお振り込みくださる場合はお名前の表示をお願いいたします。あるいは事務局にご連絡いただけますなら感謝です。

メールマガジン登録受付中!

office@akworship.com

メルマガ購読を希望される方や、その他のご連絡などは、上記のメールアドレスまでお願いします。メールマガジン、ニュースレターは、下記のホームページでもご覧いただけます。

Japanese HP <http://akworship.com/>

English HP <http://www.fgec.de/atsuko>

AKWM事務局のメールアドレスと日本語URLが新しくなりました